

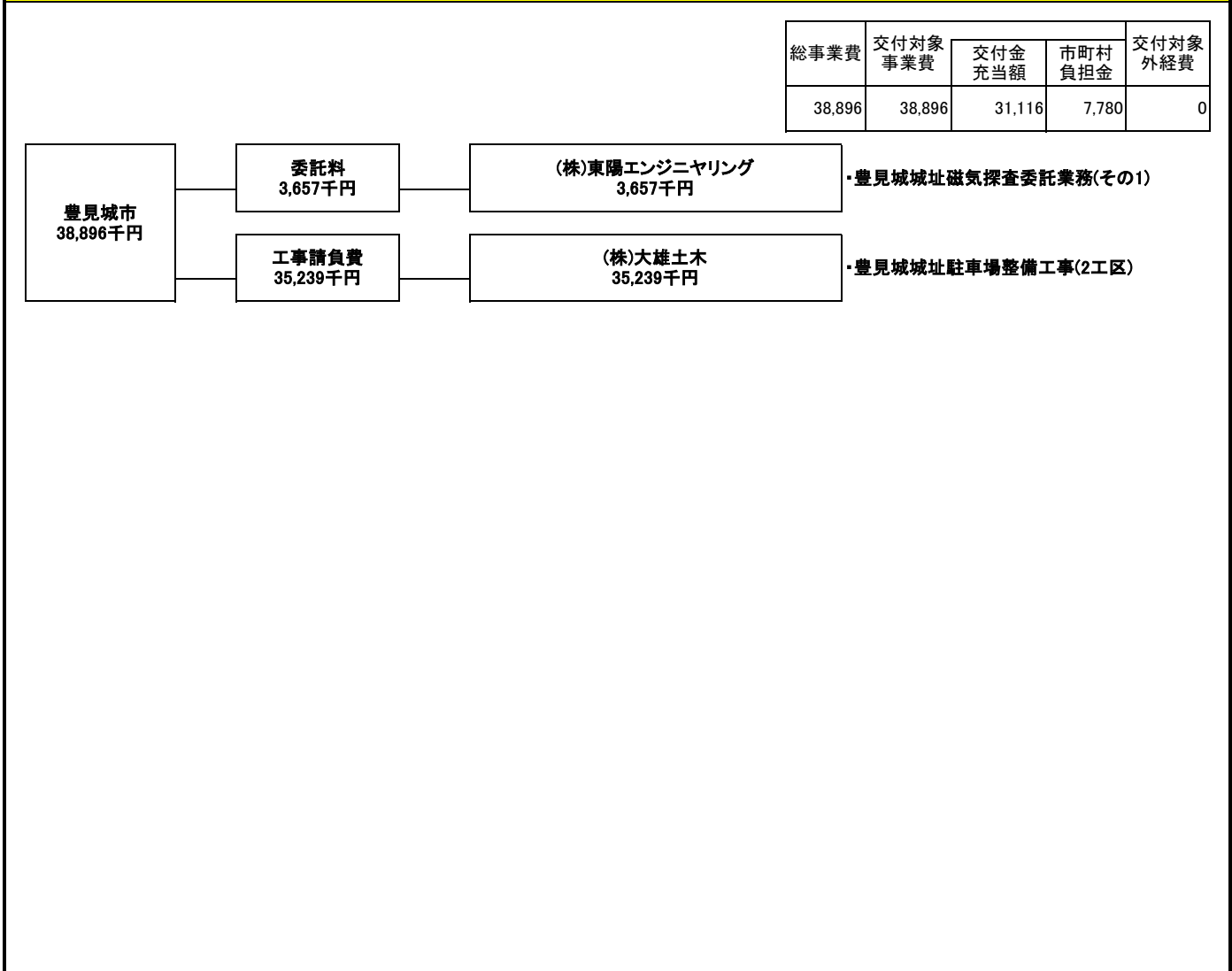
市町村名		豊見城市					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	文化観光創出事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
担当部署名	経済建設部 公園緑地課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	H25年度策定の「豊見城城址跡地利用計画」を踏まえ、豊見城城址及びその周辺について、観光資源として活用するため、用地を取得し必要な施設等の設計や整備を実施する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和4年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H28年度	H28年度(繰越)	H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	
		(a)当初予算額	529,761	0	557,609	0	38,903
	(b)予算現額	832,936	0	557,609	0	38,903	
	(c)増減額(b-a)	303,175	0	0	0	0	
	(d)繰越額	-	91,048	-	378,676	-	
	A.計(b+d)	832,936	91,048	557,609	378,676	38,903	
	B.執行済額	741,888	69,349	178,933	351,644	38,896	
	うち交付金充当額	593,510	55,479	143,146	281,315	31,116	
	次年度繰越額	91,048	0	378,676	0	0	
	執行率(%) (B/A)	89.1%	76.2%	32.1%	92.9%	100.0%	
予算の状況の説明	平成30年度予算額38,903千円の内、委託費3,657千円(予算額3,662千円)、工事費35,239千円(35,241千円)を執行した。主な用途は、豊見城城址磁気探査委託業務(その1)(3,657千円)と豊見城城址駐車場整備工事(2工区)(35,239千円)である。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	駐車場施設の整備	目標	()	()	()	(磁気探査、駐車場整備工事)	
		実績				磁気探査、駐車場整備工事	
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	平成30年7月に磁気探査委託業務(その1)、平成30年10月に駐車場整備工事(2工区)を発注し、遅滞なく工事が進み平成31年3月に工事完了となり、平成30年度内に活動目標を達成できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(令和4年度)
	駐車場施設の整備完了	目標	()	()	()	(整備完了)	()
		実績				整備完了	
	【R4成果目標】年間来場者数	目標	()	()	()	()	(2万人)
		実績					
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度は用地取得は未実施であるが、現時点で全体取得予定面積のうち累計で約83%取得済みである。 駐車場整備工事(2工区)を実施済み。引き続き関係機関との調整を踏まえ、未整備区間の園路や法面対策等の整備予定。 R4成果目標(中間目標)については、県内グスクの年間利用者を参考に施設条件などを考慮した結果、供用開始5年間に於いて、本事業により整備した施設の利用者10万人(単年あたり2万人)を目標値とした。利活用の促進に向けて県事業等で整備する施設との連携を図っていく。 						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・事業用地の取得に際し、地権者との調整(土地購入の内諾、契約等)に時間を要した。 ・沖縄県の施設である沖縄空手会館(平成28年度供用開始)及び(仮)工芸の杜(令和3年度供用開始予定)に係る周辺施設整備(駐車場、園路、給排水設備等)を早期に行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業用地の取得に際しては、地権者の理解を得ながら粘り強く説明を行う必要がある。 ・沖縄県の施設である沖縄空手会館(平成28年度供用開始)及び(仮)工芸の杜(令和3年度供用開始予定)は、本事業の施設整備(上下水道・用水路整備等)と関連している。特に(仮)工芸の杜の供用開始に合わせて事業推進が図られるよう周辺施設整備(駐車場、園路、給排水設備等)を早期に取り組む。

今後の取り組み方針

- ・取得した用地については、今後の発掘調査を含め園路及び雨水排水施設等の施設整備を行うとともに適切な管理運営に努める。
- ・残りの事業用地についても早期取得に努める。
- ・当事業と一体的な沖縄県(沖縄空手会館及び工芸の杜(仮称))との連携を図って周辺施設を整備し、また、市民に愛される豊見城グスク整備を実施していく。
- ・豊見城城址及びその周辺については、都市圏に残された貴重な緑地を有し、歴史文化資源が多く分布する特色を持ち合わせていることから、平成25年度に「豊見城城址跡地利用基本計画」を策定した。また、当計画地は、那覇空港に近く、観光客にとって旅行の初め・終わりどちらにも訪れることができる好立地であり、豊見城グスクや空手・工芸といった伝統文化が集積されることも踏まえると、集客ポテンシャルが高く、互いの相乗効果も期待できる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託の業者選定は、本市指名委員会で選定した業者を指名競争入札により実施しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算は、設計業務等積算基準書、工事標準積算基準書などより算定していることから、予算規模は事業内容と見合っていると考える。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途については、事業目的の観点から、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適性であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		豊見城市					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	とみぐすく祭り事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(3)-ア	
担当部署名	総務企画部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成26年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	これまでのとみぐすく祭りの開催趣旨である「市民、圏域住民との融和と親睦を深め、地域の活性化に寄与すること」に加え、新たな観光コンテンツとして位置付けすべく、本市発展の象徴である豊崎の地において当該イベントを開催し、成長著しい本市の活力と魅力的な観光資源を県内外へ広くアピールすることにより「ひと・そら・みどりがつながる響(とよ)むまち とみぐすく」を実現する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
		(a) 当初予算額	25,000	22,000	22,000	20,000	20,000
	(b) 予算現額	22,000	12,827	29,144	20,000	20,000	
	(c) 増減額(b-a)	▲ 3,000	▲ 9,173	7,144	0	0	
	(d) 繰越額	—					
	A. 計(b+d)	22,000	12,827	29,144	20,000	20,000	
	B. 執行済額	22,000	12,827	29,144	20,000	20,000	
	うち交付金充当額	17,600	10,261	17,600	16,000	16,000	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	実行委員を組織し、予定通り予算の執行を行った。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		
	とみぐすく祭りの開催	目標	(祭りの開催)	(祭りの開催)	(祭りの開催)	(祭りの開催)	
		実績	祭りの開催	祭りの開催	祭りの開催	祭りの開催	
	目標(指標)	目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	第35回とみぐすく祭りに係る経費助成について、遅滞することなく助成を行い、祭りを開催することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(26・28・29年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)	
		目標	(76,363人)	(91,500人)	(91,500人)	(77,000人)	()
	祭り来場者数:77,000人	実績		71,365人	66,959人	78,150人	
	目標(指標)	目標	(62.6チーム)	(60チーム)	(60チーム)	(63チーム)	()
		実績		67チーム	60チーム	中止	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・県内有名アーティストをキャスティングし、TVCM、SNS等を活用し、県内外に広く周知を行った。 ・台風接近によりハーリー大会が中止となったが、祭り当日は天候にも恵まれ、来場者数においては目標値を上回ることが出来た。 						

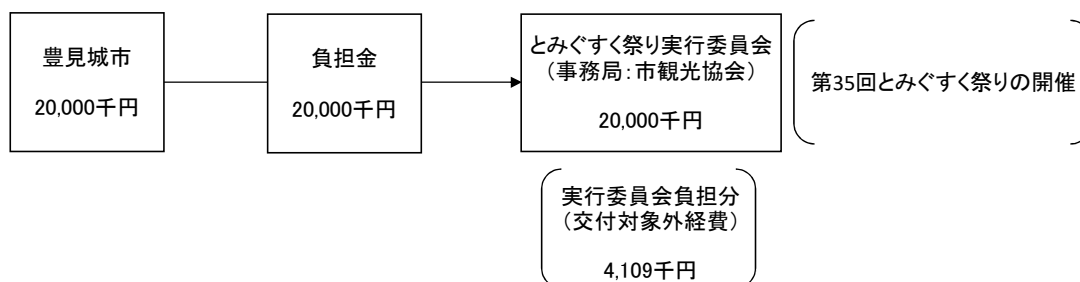
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通機関(タクシー含む)を利用した来場者が16%程度であり、大半の来場者が自家用車等での来場となっているため、祭り終了時に交通渋滞が発生している。 毎年7月末の開催であるため、十分な準備期間が確保できない。また、猛暑時期での開催であるため、熱中症対策が必要である。 県外の来場者数が10%未満となっており、県外来場者数の目標10%を目指した取り組みが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> さらなる公共交通機関の利用を促す必要がある。 祭り開催時期を熱中症等のことも考慮し、開催時期を変更する。 市外及び県外への周知方法を再検討する必要がある。

今後の取り組み方針

当該祭りの認知度も年々向上し、県外からの問い合わせも多く、人気は高まっている。しかしながら、豊崎地区の発展により、祭り開催時の駐車場確保が困難な状況となるため、公共交通機関利用のさらなる啓発を図ることを目的に、メディア等での周知に際し積極的な呼び掛けを行う。また、祭りの開催時期を従来の7月から11月に変更することで、熱中症等の心配が軽減されるとともに、準備期間を長く確保することが出来るため、早目に取り組みを行い広く周知広報に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
24,109	20,000	16,000	4,000	4,109



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○観光振興に資することを目的に市観光協会を事務局とするとみぐすく祭り実行委員会への負担金として支出したため、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○協賛金等により負担金額を上回る実績となったため、適正な予算規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○とみぐすく祭り実行委員会事務局との負担関係は、組織の財政規模、受益等を考慮して配分しており、妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限られているか。	○費目・使途については、事業目的達成の観点から要・不要等の判断を支出等に関する書類により確認しており、適正であった。

市町村名		豊見城市					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③		観光振興地域環境美化強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
	担当部署名	経済建設部 道路課	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	南国沖縄らしい景観や、魅力ある観光地づくりを図るため、大型商業施設及び宿泊施設などが所在する豊崎、瀬長地域の市道植樹樹の除草清掃や、プランターの植栽管理を行い美化強化に努め、魅力ある観光地づくりに取り組む。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
		(a) 当初予算額	5,832	10,444	6,105	6,200	6,200
	(b) 予算現額	5,832	10,023	6,105	6,200	6,200	
	(c) 増減額(b-a)	0	▲421	0	0	0	
	(d) 繰越額	—	0	0	0	0	
	A. 計(b+d)	5,832	10,023	6,105	6,200	6,200	
	B. 執行済額	5,832	10,023	6,105	6,200	6,200	
	うち交付金充当額	4,665	8,017	4,884	4,960	4,960	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		事業計画とおりに執行を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	植樹樹の管理(1387樹、3回除草)	目標	(植樹樹の除草・清掃)	(植樹樹の除草・清掃)	(植樹樹の除草・清掃)	(植樹樹の除草・清掃)	
		実績	植樹樹の除草・清掃	植樹樹の除草・清掃	植樹樹の除草・清掃	植樹樹の除草・清掃	
プランターの植栽管理(464個)	目標	(プランターの植栽管理)	(プランターの植栽管理)	(プランターの植栽管理)	(プランターの植栽管理)		
	実績	プランターの植栽管理	プランターの植栽管理	プランターの植栽管理	プランターの植栽管理		
達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> ・瀬長島、豊崎地区の植栽樹1371樹の抜根除草及び除草剤散布等を行った。 ・平成25年度に設置したプランター464個への灌水等を実施し植栽管理を行った。 					
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
	魅力的な観光地としての景観形成を図られたか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目標	()	()	()	(80%)	()
		実績				70%	
	【参考指標】 ・植樹樹の除草清掃 ・プランターの植栽管理による魅力ある観光地の形成	目標	()	(1387樹/3回464個)	(1387樹/3回464個)	()	()
実績			1387樹/3回464個	1387樹/3回464個			
進捗状況説明		植樹樹・プランター等についてのアンケート調査を、年度末の3月に本市の主要観光地である豊見城市観光プラザにて実施した。44名からの回答を集計した結果、70%が「魅力的な観光地の景観である」と回答したが、目標値である80%にはわずかに届かなかった。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・市道に設置されている植樹樹の除草清掃を豊崎美らSUNビーチ等で開催されるイベント時期に実施できなかったため、イベント期間中に雑草等が生い茂ってしまい、観光地として景観が悪かったことが目標達成につながらなかった要因と考えられる。 ・プランター内の花木が枯れてしまい減少しつつあるので、花木の追加等の検討を行い適正な管理を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市道に設置されている植樹樹の除草清掃時期を豊崎美らSUNビーチ等で開催されるイベント時期に合わせて実施出来るよう関係機関との連携を図る。 ・開花時期が異なる花等の調査を行い一年中、南国沖縄らしい景観が保てるよう検討を行う。

今後の取り組み方針

・市道に設置されている植樹樹の除草清掃時期を、豊崎美らSUNビーチ等で開催されるイベント時期に合わせて実施できるよう関係機関と連携を図り、適切な管理に努めていく。
 ・プランター内の花木が、一年中南国沖縄らしい景観が保てるように専門業者等へヒアリング調査を実施する。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
6,200	6,200	4,960	1,240	0



・植樹樹の除草清掃及びプランターへの灌水等に係る委託業務

資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○		支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札により決定しており、妥当であったと考えられる。 ○予算規模は、積算基準等に基づいて編成しており、適正であったと考えられる。 ○費用・使途について委託業務に必要な除草清掃費用、プランター灌水費用を計上しており、適正であった。
	○		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④	新しい公共交通システム導入可能性調査検討事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア		
担当部課名	都市計画部 都市計画課	事業実施(予定)年度	平成28年度～令和元年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	新たな公共交通システムの導入を目指し、公共交通の利便性向上を図り、公共交通の利用促進をするため、過年度に検討、整理を行った実施施策(短期施策)に基づいて、平成30年度は、市内一周バスのルート変更に向けた調査、手続き、広報作業を行い、平成31年4月にルート変更を実施する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和元年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	13,952	21,600	9,720		
		(b)予算現額	13,889	19,764	11,582		
		(c)増減額(b-a)	▲63	▲1,836	1,862		
		(d)繰越額					
		A.計(b+d)	13,889	19,764	11,582		
		B.執行済額	13,889	19,764	11,474		
		うち交付金充当額	11,111	15,811	9,179		
		次年度繰越額					
		執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	99.1%		
予算の状況の説明	適正な積算と計画の結果、事業計画通りに執行を行えた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	市内一周バスのルート変更に向けた調査、手続き、広報作業	目標	()	()	(H31年3月完了)	()	
		実績			H31年3月完了		
	【参考指標】 ・市内一周バス再編に向けた検討 ・期間公共交通システムの検討	目標	()	(調整及び検討)	()	()	
		実績		調整及び検討			
達成状況説明	H31年4月にルート変更を実施するため、下記の内容をH31年3月31日までに完了した。 〈調査〉ルート変更前のバス利用者実態調査(バス停別乗降者数の把握、アンケートの実施、データ分析) 〈手続き〉ルート変更申請書等の作成支援、道路占用許可申請、新規バス停設置工事 〈広報作業〉ポスター、チラシ、HP等、バスラッピング、バス停音声案内						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
	市役所移転後の市内一周線のルート変更前の利用状況の把握	目標	()	()	()	(アンケート実施)	()
		実績				アンケート実施	
	【参考指標】 市内一周バス再編に伴う社会実証実験計画の作成	目標	()	()	(計画書作成)	()	()
		実績			計画書作成		
	進捗状況説明	平日、休日各2日(計4日)においてバス利用者実態調査を実施した結果、総利用者数760人に対して、499票のアンケートを回収することができた(アンケート回収率66%)。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 事前調査で499票のアンケートを回収することができ、サンプル数としては適当数を確保する事ができた。 地域住民との意見交換を受け、公共交通不便地域をルートに入れたことにより、ルート変更による時間短縮は限られたものとなっている。 外部環境の変化として懸念される事項として、消費増税に伴うバス運賃見直しが考えられる。調査内容である、バス利用者満足度について『運賃』の項目が有るが運賃見直しがあると、事後のアンケート結果に影響を及ぼす可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度に行う事後調査についても、本年度と同程度のアンケート数の回収を目標とし、調査方法については特に改善の検討は必要ないとする。 アンケート調査を通して、ルート変更後の「便数」「ルート」「運賃」等の満足度調査を実施し効果検証を行う。 バスを利用しない方も含めた市民、観光客を対象に、ルート変更後のバスの認知度を把握する必要がある。

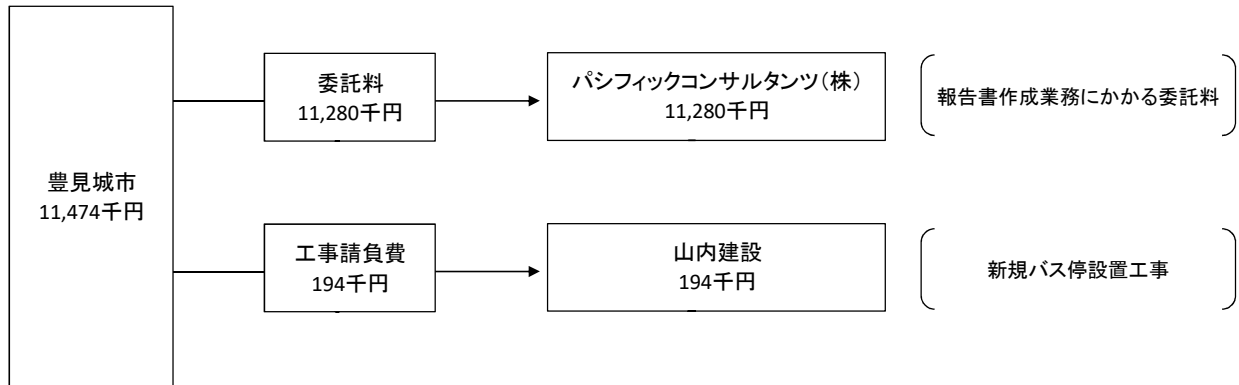
今後の取り組み方針

市内一周バス再編により利便性が確保されたか、ルート変更後にアンケート及び実態調査を実施し、ルート変更の事後評価・効果検証を行う。

- アンケート及び実態調査の実施予定時期(R元年7月頃、R2年1月頃)
- 豊見城市地域公共交通検討委員会の開催予定回数(2回程度)
- ルート変更の事後評価及び効果検証(R2年3月頃)
- 認知度の把握のため、バス乗車者ではなく、無作為に抽出した市民や観光客に対してアンケートを実施

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
11,474	11,474	9,179	2,295	0



資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は総合評価落札方式(入札)で、また、工事業者は随意契約でそれぞれ選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目・使途については、完了検査を実施し適正なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		豊見城市					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	とみぐすく産業フェスタ			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(9)-イ	
担当部署名	総務企画部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成 Ⅲ-1-(7)	
事業内容	産業フェスタを開催し、豊見城市の豊かな産品をPRし、地産地消を推進し、地域内経済の循環を高める。また、地域産業の振興、集客交流の場とすることで、異業種間での連携を産み出し、新たな産業の創出を図り地域の更なる活性化に資する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
		(a) 当初予算額	15,000	12,500	11,000	10,000	9,000
		(b) 予算現額	15,000	12,500	11,000	10,000	9,000
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額	—				
	A. 計(b+d)		15,000	12,500	11,000	10,000	9,000
	B. 執行済額		14,524	11,672	10,774	10,000	9,000
	うち交付金充当額		11,619	9,337	8,619	8,000	7,200
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		96.8%	93.4%	97.9%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		実行委員会を組織し、各事業計画どおりに執行を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	とみぐすく産業フェスタの開催に係る経費の負担		目標 (経費の負担)	(経費の負担)	(経費の負担)	(経費の負担)	
			実績 経費の負担	経費の負担	経費の負担	経費の負担	
			目標 ()	()	()	()	
			実績				
達成状況説明	当該イベントに係る実行委員会への負担金を支出し、予定通りイベントを実施した。来場者アンケートではまた来場したいが99.46%となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
	とみぐすく産業フェスタ来場者数 34,000人		目標 ()	(36,000人)	(37,000人)	(34,000人)	()
			実績	34,512人	34,247人	28,254人	
			目標 ()	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・お米のつかみ取りや市内飲食店が地元食材を使用したグリーンテーブルプロジェクトを行った。 ・一日目は、朝から雨風が強く、出展が店舗を開けることができず、来場者の落ち込みがあった。 ・広報は、従来の新聞、HP、SNSだけでなく、コンビニでのレジ液晶POPの活用を試みた。 ・出展者目標を60社(60ブース)としていたが、41社(47ブース)にとどまり、例年並みだった。 ・フィールドアトラクションとして、「働くクルマ体験」だけでなく、「レゴブロック教室」と「ロードトレイン」を実施し、集客に一定の効果を得た。 					

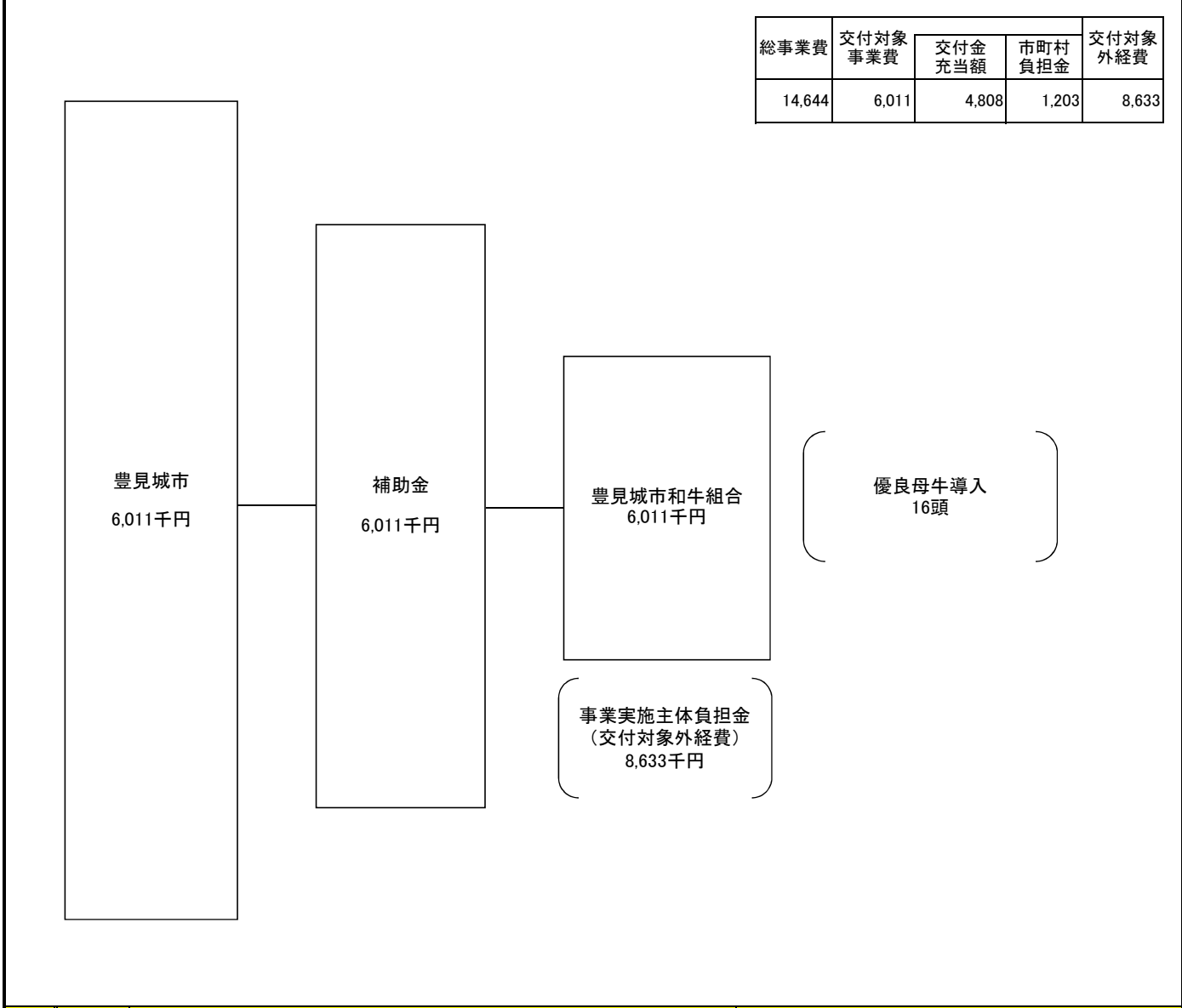
市町村名		豊見城市					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②		優良母牛導入支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-(ア)	
担当部署名	経済建設部 農林水産課		事業実施(予定)年度	平成27年度～令和元年度	沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 Ⅲ-1-(7)	
事業内容	優良母牛の導入を促進し、畜産農家の資産基盤の確立及び経営の安定、農業振興を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a) 当初予算額	6,000	6,000	6,000	6,400	
	(b) 予算現額	6,000	6,000	5,719	6,011		
	(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 281	▲ 389		
	(d) 繰越額	-	-	-	-		
	A. 計(b+d)	6,000	6,000	5,719	6,011		
	B. 執行済額	5,645	5,837	5,719	6,011		
	うち交付金充当額	4,516	4,669	4,574	4,808		
	次年度繰越額	0	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)	94.1%	97.3%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明	・計画していた事業内容を実施しており活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えられる。 ・セリ市場で優良母牛を安く落札できたため執行額が減となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		
	優良母牛導入に対する補助	目標	(補助)	(補助)	(補助)	(補助)	
		実績	補助	補助	補助	補助	
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	牛のセリ価格が高騰傾向にある中、家畜セリ上場頭数の情報共有化及び県内外での購入を行う事によりスムーズに対応することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)	
		目標	()	()	(110%)	(110%)	()
	導入した優良母牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合	実績			牝112% 去勢108%	牝132% 去勢107%	
		目標	()	(15頭)	()	()	()
	【参考指標】優良母牛導入頭数	実績		15頭			
進捗状況説明	H30年度において、合計16頭導入し、4ヶ年導入実績61頭となった。また、導入牛から生まれた子牛の平均価格が去勢794,520円、雌871,118円に対して、そうでない子牛の平均価格が去勢745,987円、雌662,318円となっており、成果目標を達成できた。 ・5月鹿児島県(与論セリ市場)2頭 ・6月沖縄県(今帰仁セリ市場)2頭 沖縄県(南部セリ市場)3頭 ・7月沖縄県(南部セリ市場)1頭 鹿児島県(曾於セリ市場)2頭 ・8月沖縄県(南部セリ市場)1頭 ・9月宮崎県(小林セリ市場)1頭 ・10月沖縄県(南部セリ市場)1頭 ・11月鹿児島県(与論セリ市場)2頭 沖縄県(南部セリ市場)1頭						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・成果目標を達成できたが、優良母牛のセリ価格が高騰しており、引き続き事業推進が必要である。 ・当初計画では3年計画であったが延長、継続することで、さらなる和牛群改良を促すとともに畜産業の振興にもつながる。 	<p>出荷時に更に高値がつくようにセリ結果などから血統の情報の更新や共有を行い、優良種雄牛の種付けにつながるよう取り組んでいく。</p>

今後の取り組み方針

優良母牛への更新・増頭を行うのと並行して、専門的な知識の共有を図るため飼養管理に関する講習会等を行うとともに和牛群改良を推進していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
資金の流 れ、費 目・	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業実施主体は、補助金交付要綱により適正に事業実施している。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○受益者である豊見城市和牛組合は総事業費の5割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に則し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		豊見城市					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②	心理相談事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ	
担当部署名	健康福祉部 健康推進課	事業実施(予定)年度	平成27年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実	
事業内容	<p>・乳幼児健診において臨床心理士を配置し、乳幼児健診の充実を図るとともに、発達支援を要する乳幼児の早期発見に努める。また、乳幼児健診後の事後フォローとして親子教室、個別相談を行い、適切ななかかわり方の助言や育てにくさを抱える保護者の育児不安軽減を図る。</p> <p>・発達支援を必要とする乳幼児については、保育所、療育機関、医療機関等と連携し早期支援につなぐ。</p>						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,183	2,605	2,627	1,010	
		(b) 予算現額	5,183	2,605	230	620	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 2,397	▲ 390	
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)		5,183	2,605	230	620	
	B. 執行済額		4,969	2,454	120	590	
	うち交付金充当額		3,975	1,963	96	472	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		95.9%	94.2%	52.2%	95.2%	
予算の状況の説明		当初、110回/年の個別心理相談を予定していたが、69回/年と回数を減にしたため報償費を390千円減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	乳幼児健診 24回 親子教室 10回 心理相談(面談) 35回 計 69回	目標	(59回)	(42回)	(23回)	(69回)	
		実績	59回	42回	12回	65回	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	当初、嘱託員1名採用の予定であったが、人材確保出来ず、報償費による単発の心理相談事業へ切り替えた。これにより個別心理相談回数が下回り、110回/年から69回/年へ変更して実施した(実績:乳幼児健診25回、親子教室10回、心理相談30回)。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
	臨床心理士への相談による育児に関する不安が軽減されたか(80%以上)を含め、保護者へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	()	()	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績			100%	95.90%	
	【参考指標】 健診事業での発達相談 80件 個別相談 80件	目標	()	(80件 80件)	(-)	(-)	()
		実績		235件 48件	6件 20件	106件 60件	
	進捗状況説明	個別心理相談後に保護者アンケートを実施した。回収した123件のうち118件(95.9%)が「心理相談を受け、悩みや不安が軽くなった」との回答が得られた。また、人材確保が難しく、嘱託員配置計画から変更し、報償費スタッフ(単発相談)に切替え実施した。					

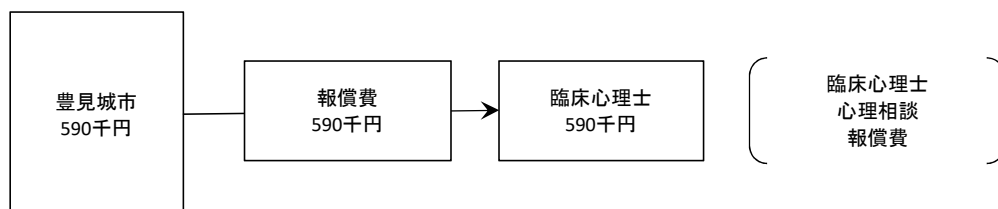
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・成果目標を達成できた要因は、各臨床心理士との事前調整、幼児の状況を把握している保健師の同伴面談、実施後のアンケート評価及び保護者の感想を心理士にフィードバックする等の工夫にあったと思われる。 ・単発相談への切替えにより、専属担当心理士ではなく日替わりで報償スタッフを配置するため、同一者による継続相談が確実ではない点、また支援体制として、心理士は当日限りの対応となり、その後のフォローや他部署との連携・調整ができず、それを補う形で保健師の同伴面談や継続的な調整に時間を要することが課題となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標とする「育児の不安の軽減80%以上」は、健診から相談までをつなぐ保健師と臨床心理士のきめ細やかな調整により達成できているため、改善の必要はないと考える。 ・人材確保の課題により報償スタッフへ切り替えたが、業務内容からは、同一担当者配置が望ましく、安定的な人材確保の検討が必要である。

今後の取り組み方針

臨床心理士が効果的に相談対応できるよう、市の発達支援体制や関係職種との円滑な調整、個別支援会議等の機会を持ち、相談支援事業の質の向上に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
590	590	472	118	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○臨床心理士の募集は公募であり、適正な選定である。 ○予算額の執行率は95.2%となっており、適正な規模である。 ○事業予算は完了時に検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		豊見城市					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	特別な支援を必要とする子の巡回相談事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ	
担当部署名	福祉健康部 保育こども園課	事業実施(予定)年度	平成26年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実 III-4	
事業内容	公立幼稚園及び公立・法人・認可外保育施設における「特別な支援を必要とする子」への保育の充実ときめ細かい対応及び早期発見を図るため、臨床心理士の専門指導員を配置し、巡回相談・支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,894	5,183	5,242	5,251	5,259
		(b) 予算現額	2,814	5,183	2,969	3,686	5,259
		(c) 増減額(b-a)	▲ 80	0	▲ 2,273	▲ 1,565	0
		(d) 繰越額	—	0	0	0	0
	A. 計(b+d)		2,814	5,183	2,969	3,686	5,259
	B. 執行済額		2,514	4,969	2,780	3,674	5,131
	うち交付金充当額		2,011	3,975	2,223	2,938	4,104
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		89.3%	95.9%	93.6%	99.7%	97.6%
予算の状況の説明		臨床心理士2名の報酬及び共済費の内、補助対象外経費(H31.3月分)を除いた内容となっており、予算を適正に執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	臨床心理士配置	目標	()	(2人)	(2人)	(2人)	
		実績		1人	2人	2人	
	【参考指標】 公立保育所2ヶ所、法人立認可保育園15ヶ所、認可外保育施設28ヶ所への巡回相談等の実施	目標	(49カ所)	()	()	()	
		実績	49カ所				
達成状況説明	臨床心理士2名を配置し、市内幼稚園・保育施設を計画通り巡回相談を実施し、気になる子とその保護者との面談や保育士と連携を図る事で、子育て支援及び負担軽減を図る事ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
	対象となる幼児の保護者・保育士へのアンケートで、臨床心理士への相談により負担感・負担感が軽減されたと感じる割合 80%以上	目標	()	()	(80%)	(80%)	()
		実績			保護者:83% 保育士:91.7%	保護者:85.3% 保育士:92.6%	
	【参考指標】 「特別な支援を必要とする子」への対応や保護者への相談・支援件数	目標	()	(120件)	(—)	(—)	()
		実績		218件	253件	398件	
	進捗状況説明	市内保育施設及び入所児童数の増加に伴い発達の気になる子も年々増加し、巡回相談においても相談・支援件数がもの凄く増えている。また、担当保育士から助言を求める声も多く、専門性を活かした相談支援を行う事で、保護者や保育士等の育児不安の軽減が図られ、保育の資質向上に繋げることができた。					

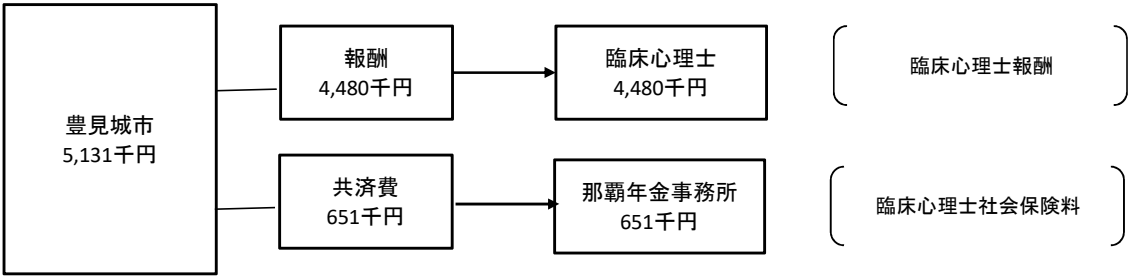
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①年々巡回相談及び個別の相談件数も増え、臨床心理士2名体制で対応する事が厳しい状況である。 ②相談件数が増えていく中で、個別に保護者の育児不安など解消に至るまでの関わりが持てないケースもある。	①各保育施設において保育士の質の向上を図り、気になる子や保護者との関わりを学び対応する事で、必要な時に臨床心理士に相談助言を受けられる環境が整う(ティーチャーズトレーニングの活用)。 ②業務の振り分けを行う事で、保護者の育児不安など解消に至るまでの関わりを丁寧に行う事ができる。

今後の取り組み方針

- ①-1 安定的な支援体制の確保及び増加する件数に対応するため、臨床心理士の正規雇用化及び増員を目指す。
- ①-2 加配保育士の質の向上を図る為、ティーチャーズトレーニングを実施する。
- ②他部署(健康推進課、学校教育課)と重複して関わる児童については、相談窓口を一本化し、個々に関わる時間を確保する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
5,131	5,131	4,104	1,027	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・臨床心理士の人件費としては、過大ではない。 ・臨床心理士の人件費として最低限必要な賃金、社会保険料の支出に限定されており、適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③	幼稚園特別支援教育支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(3)-イ	
担当部署名	福祉健康部 保育こども園課	事業実施(予定)年度	平成28~30年度		沖縄振興基本方針該当箇所	障害のある人が活動できる環境づくり III-4	
事業内容	市立幼稚園に特別支援教育支援員を配置し、特別な支援を必要とする子に応じた支援を行うことで、学校生活や学習上の困難の改善を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	114,576	35,362	27,058		
		(b) 予算現額	77,449	22,370	21,759		
		(c) 増減額(b-a)	▲ 37,127	▲ 12,992	▲ 5,299		
		(d) 繰越額	0	0	0		
	A. 計(b+d)		77,449	22,370	21,759		
	B. 執行済額		76,533	20,272	20,643		
	うち交付金充当額		61,226	16,217	16,514		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		98.8%	90.6%	94.9%		
予算の状況の説明		当初予算額より予算現額が減った理由については特別支援教育支援員の確保に苦慮し、人材が集まらなかったため5,299(千円)の減額補正を行った。補正後においても、1名の新規確保を目指したが、確保できなかったことが主な要因となり1,116(千円)の執行残が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	特別支援教育支援員の配置 幼稚園:18人	目標	(32人)	(21人)	(18人)	()	
		実績	15人	17人	17人		
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	当初事業計画においては16人の配置計画であったが、事業年度当初においては13人の配置に留まった。しかし、年度途中において支援を必要とする幼児が増えるなど事業計画の変更により活動目標を18人に変更。目標人数の18人を配置したが、退職により事業完了月には17人の配置となったことにより、活動目標の達成には至らなかった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
	特別支援員の対応への満足度(80%以上)を含め、保護者へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	()	()	(80%)	(80%)	()
		実績			100%	100%	
	【参考指標】 支援を要する園児への配置(%):100%	目標	()	(100%)	(-)	(-)	()
		実績		76.24%	80%	84%	
	進捗状況説明	支援員を配置した対象園児28名の保護者のうち、12名の保護者から回答を得た結果、「大変満足している」が66.7%、「おおむね満足している」が33.3%を占め、合計満足度が100%となり成果目標80%以上を達成した。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・自閉症や多動などの特別な支援を必要とする子を預かるためには、個々の特性に応じた支援と安全性確保のために支援員が必要であるが、一方で障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律による合理的配慮も必要中、人材確保に苦慮している状況である。 ・特別な支援を要する幼児が年々増加傾向にあり、また対象児の特性も個々に異なることから、特別支援教育支援員の知識向上が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公立幼稚園全7施設の認定こども園移行に伴い、6施設が法人運営、1施設が公立となることから、各施設の特性やネットワークを活かした人材確保ができるようになる。 ・臨床心理士による巡回相談事業により特別支援教育支援員の知識向上を図る。

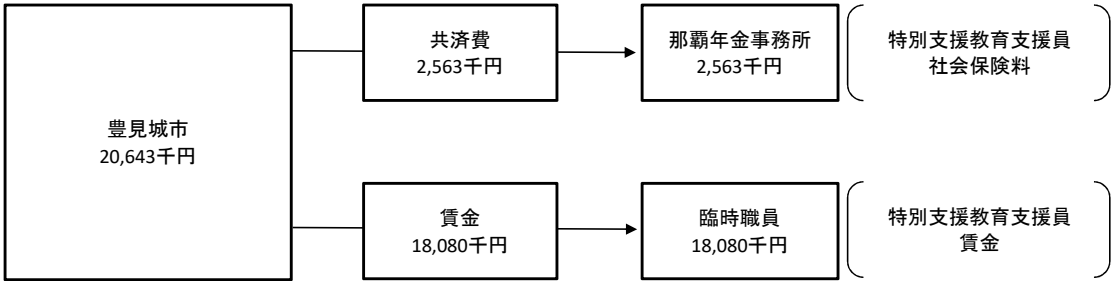
今後の取り組み方針

・令和元年度から公立幼稚園全7施設が認定こども園に移行し、うち6施設が法人運営の公私連携型認定こども園となり、公立こども園は1施設となることから、正規職員の集約により人材不足解消を図る。また、法人運営施設へは、支援員配置に係る人件費補助金交付を市単独事業として実施し、人材確保を支援する。

・臨床心理士が公立こども園や法人運営施設を巡回し、特別支援教育支援員に対し対象児の個々の特性や発達段階に応じた指導・助言を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
20,643	20,643	16,514	4,129	0



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○任用は広く募集しており、適正な選定である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○当初予算規模については、当初見込んでいた人員を確保できなかったため過剰となったが、補正減により適正となった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○特別支援教育支援員の人件費として最低限必要な賃金、社会保険料の支出に限定されており、適正である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		豊見城市					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	特別支援教育支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部署名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成28年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-(3)-1	
事業内容	小中学校において、特別に支援を要する児童生徒の教育活動の充実を図るため、特別支援教育支援員を配置し支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
		(a) 当初予算額	114,576	74,053	67,252		
	(b) 予算現額	77,449	54,954	36,369			
	(c) 増減額(b-a)	▲ 37,127	▲ 19,099	▲ 30,883			
	(d) 繰越額						
	A. 計(b+d)	77,449	54,954	36,369			
	B. 執行済額	76,533	56,000	35,643			
	うち交付金充当額	61,226	44,799	28,514			
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	98.8%	101.9%	98.0%			
予算の状況の説明	当初の特別支援員配置予定数を確保できなかったため、当初予算より30,883千円減額補正した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	特別支援教育支援員の配置:26人	目標	(45人)	(43人)	(26人)	()	
		実績	43人	36人	27人		
	特別支援教育コーディネーターの派遣による教育相談・指導助言・面談等の実施。	目標	()	(1人)	(1人)	()	
		実績		1人	1人		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育支援員については、年度当初の目標数(38人)の確保が見込めず、年度途中で目標値を26人と修正し、最終的に27人採用した。 特別支援教育コーディネーターを派遣し、教育現場における特別支援教育支援員の教育相談や指導助言が適切に行われた。また、特別支援教育支援員の面談を行い、適格者を任用することができた。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)	
	特別支援員の対応への満足度(80%以上)を含め、保護者へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	()	()	(80%)	(80%)	()
		実績			81%	86.6%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 支援を必要とする児童生徒に対し特別支援教育支援員を配置したことにより対象児童生徒の学習環境が充実した。 対象児童生徒の保護者への満足度アンケートの結果、満足を感じた方が全体の約87%であったことから、支援員配置の必要性が改めて確認された。 						

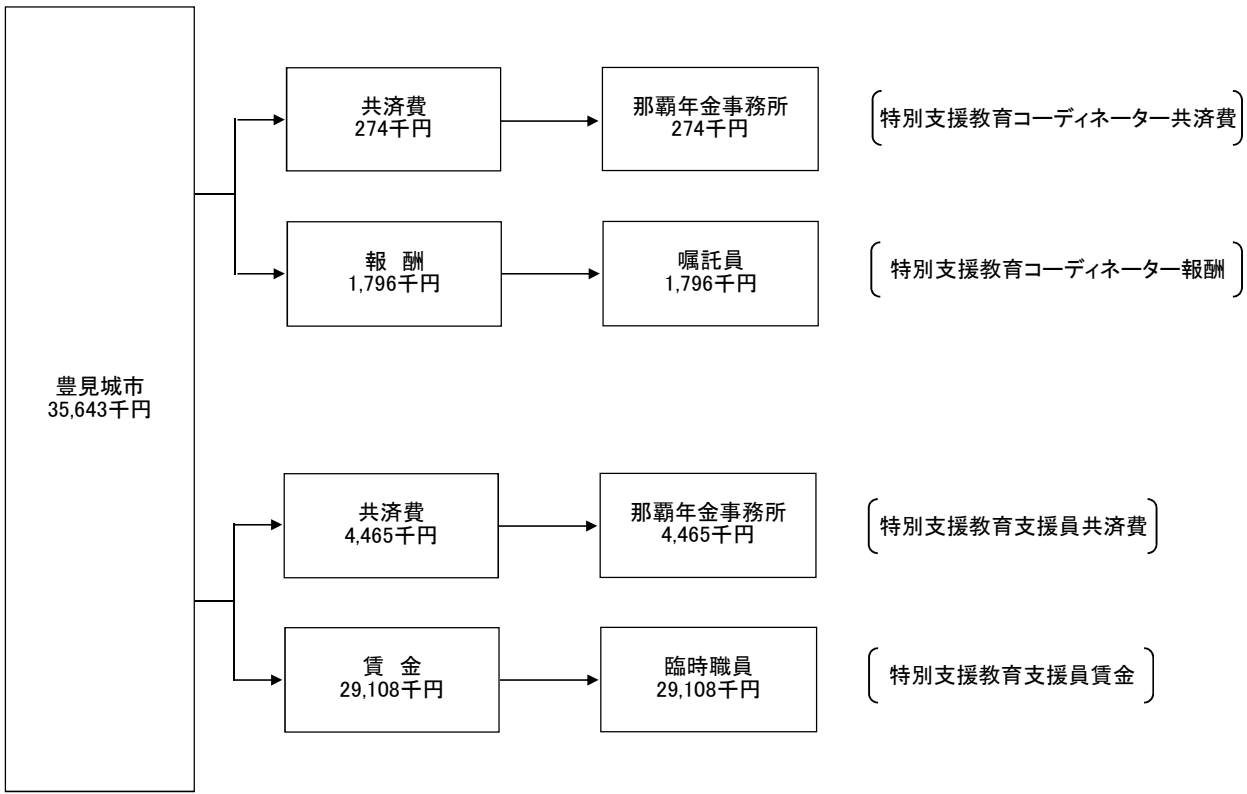
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	成果目標は達成できたが、年間をとおして特別支援教育支援員の任用が厳しい状況である。	特別支援教育支援員の募集方法について既存の方法以外でのアプローチを検討する必要がある。

今後の取り組み方針

特別支援教育支援員の募集方法の再検討に加え、支援員の任用条件等の見直しを行い、年間を通した支援員の確保に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
35,643	35,643	28,514	7,129	0



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○特別支援教育支援員の採用については、面接を行い採用している。 ○予算規模は、事業に見合った規模と考える。 ○費目・使途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認、適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市
------	------

平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-②	学力向上サポート事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ
担当部署名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和3年度	沖繩振興基本方針該当箇所
				豊かな心とたくましい体を育む教育の推進
				Ⅲ-3-(1)

事業内容
市内各小中学校への教員の補助として学力向上推進補助員を配置し、きめ細かい支援を行うことで学力向上を図る。

効果発現年度
 当年度 後年度(年度)

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他()

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	27,333	22,400	23,491	22,719	23,192
		(b) 予算現額	26,534	21,859	19,831	20,808	20,720
		(c) 増減額(b-a)	▲ 799	▲ 541	▲ 3,660	▲ 1,911	▲ 2,472
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)		26,534	21,859	19,831	20,808	20,720
	B. 執行済額		21,934	21,340	19,205	20,915	20,014
	うち交付金充当額		17,547	17,072	15,364	16,732	16,011
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		82.7%	97.6%	96.8%	100.5%	96.6%
	予算の状況の説明		学力向上推進補助員について、当初計画どおり配置できなかった期間があったため、当初予算より2,472千円減額補正した。				

活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
		学力向上推進補助員配置数(各学校1人) 小学校:8人 中学校:3人	目標 (小学校:8人 中学校:3人)	(小学校:8人 中学校:3人)	(小学校:8人 中学校:3人)	(小学校:8人 中学校:3人)
	実績 小学校:8人 中学校:3人	小学校:8人 中学校:3人	小学校:8人 中学校:3人	小学校:8人 中学校:3人	小学校:8人 中学校:3人	
	目標 ()	()	()	()	()	
	実績 ()	()	()	()	()	
達成状況説明	児童生徒の学力向上のため、市内各小中学校へ1人ずつ学力向上推進補助員を配置し、担当教諭と連携した授業を実践したことにより児童生徒へのきめ細やかな指導が行えた。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(R3年度)
		沖縄県学力到達度調査での県平均正答率との差 ・小学校:+2.3ポイント ・中学校:+2.2ポイント	目標 ()	(小:+2.0 中:-5.0)	(小:+2.3 中:+2.2)	(小:+2.3 中:+2.2)
		実績 ()	小:+4.97 中:-2.55	小:+3.0 中:+1.3	小:+2.0 中:-0.1	()
		目標 ()	()	()	()	()
		実績 ()	()	()	()	()
進捗状況説明	児童生徒の学力向上を目的に市内各小中学校に1人ずつの学力向上推進補助員を配置し、担当教諭と連携した授業を展開することで、よりきめ細やかな教育環境の充実を図ったが、小中学校共に成果目標は未達となった。					

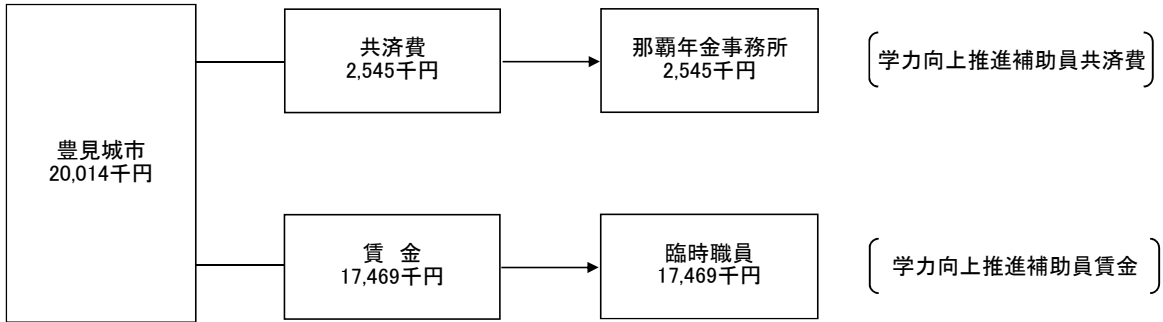
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	一部の小中学校において担任教諭の休業があり、補充教諭の配置に時間を要したためスムーズな授業実践が行えず、結果として当該学校において大きく県平均を下回った。	<ul style="list-style-type: none"> 担任教諭不在の中において、補助員は補充教諭との連携が必要となるため授業進捗状況が説明できるよう取り組む必要がある。 担任教諭のみならず学年主任等との連携を密に図り、スムーズな授業展開の補助を行えるようにする必要がある。

今後の取り組み方針

- ・小中学校において、補助員の活用方法について計画性をもって取り組み、安定した指導実践の補助が行えるようにする。
- ・また、担任教諭との連携を密にし、授業の進捗状況の把握、児童理解に努める。
- ・補助員のスキルアップを図るため、夏休み期間中の「サマースクール」や「寺子屋学習塾」を活用し指導実践力の向上を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
20,014	20,014	16,011	4,003	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○学力向上推進補助員の採用については、面接を行い採用している。 ○予算規模は、事業に見合った規模と考える。 ○費目・用途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認、適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		豊見城市						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-③	スクールソーシャルワーカー配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ		
担当部署名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成27年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	問題を抱える児童生徒を取り巻く環境の改善を図り、児童相談所等関係機関とのネットワーク構築のため、スクールソーシャルワーカーを配置し、社会福祉の観点から支援を行う。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,687	6,481	5,901	5,901		
		(b) 予算現額	1,687	5,524	5,527	5,492		
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 957	▲ 374	▲ 409		
		(d) 繰越額						
	A. 計(b+d)		1,687	5,524	5,527	5,492		
	B. 執行済額		1,484	5,495	5,503	5,443		
	うち交付金充当額		1,186	4,396	4,402	4,354		
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		88.0%	99.5%	99.6%	99.1%		
予算の状況の説明		当初予算で見込んでいた、社会保険料等より執行額が少なかったため当初予算より409千円減額補正した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		
	スクールソーシャルワーカー配置数:3人 市内小学校8校、中学校3校への巡回配置		目標	(1人)	(3人)	(3人)	(3人)	
			実績	1人	3人	3人	3人	
			目標	()	()	()	()	
			実績					
達成状況説明	スクールソーシャルワーカーを当初計画とおり3名任用し、市内小中学校へ巡回配置し、問題を抱える児童生徒の支援を行った。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)	
	支援対象ケース改善率32%		目標	()	(3%)	(32%)	(32%)	()
			実績		31.52%	45.21%	41.66%	
			目標	()	()	()	()	
			実績					
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールソーシャルワーカーを当初計画とおり3名を市内小中学校へ巡回配置し、問題を抱える児童生徒及びその保護者に対し支援を行った。 ・支援対象件数156件に対し65件が問題改善へとつながり、成果目標は達成となった。 						

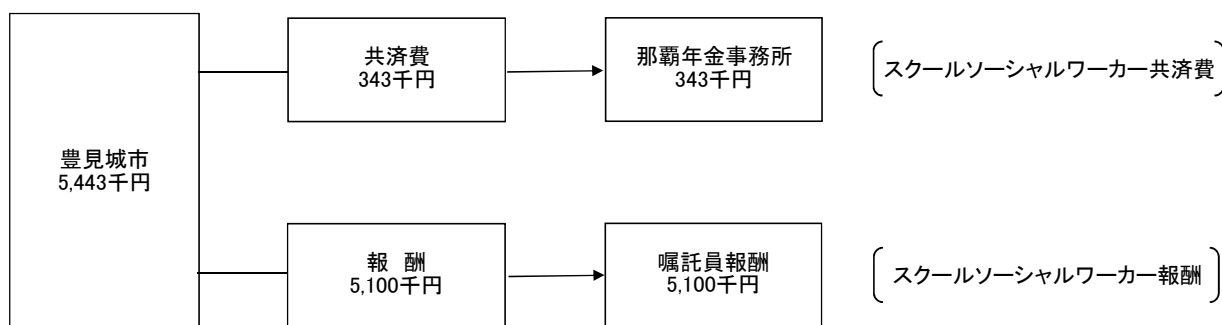
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	家庭内における親子関係、学校生活における対人関係不安等、様々な要因が内在して問題化しており、ケースによっては、原因の掘り起こしから開始し課題解決へ取り組む必要があるため、中長期的な支援になることもある。	<ul style="list-style-type: none"> ・長期化を未然に防ぐため、担任教諭や養護教諭との連携により不安材料の早期発見に努め早期解決につなげる必要がある。 ・長期化が見込まれるケースについては、福祉部門等と連携し、切れ目のない支援を行う。 ・児童相談所など他機関への協力が必要となるケースについては、市子育て支援課を通じて支援の範囲を拡大するなどの対応を行う。

今後の取り組み方針

引き続きスクールソーシャルワーカーの配置を行い、学校や関係機関と連携し、問題を抱える児童生徒の環境改善に向けて支援を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
5,443	5,443	4,354	1,089	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○スクールソーシャルワーカーの採用については、面接を行い採用している。 ○予算規模は、事業に見合った規模と考える。 ○費目・使途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認、適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-④	不登校等対策支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ		
担当部署名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	不登校や問題行動を抱える児童生徒に対し各種支援員を配置し、生徒指導や教育相談等の適切な支援を行うことにより登校復帰及び社会的自立を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	20,344	14,139			
		(b) 予算現額	16,960	13,258			
		(c) 増減額(b-a)	▲ 3,384	▲ 881			
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)		16,960	13,258			
	B. 執行済額		16,696	12,931			
	うち交付金充当額		13,356	10,344			
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		98.4%	97.5%			
予算の状況の説明		登校支援員について、当初計画どおり配置できなかった期間があったため賃金及び共済費を当初予算より881千円減額補正した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	学習支援補助員配置数:中学校3人		目標 (3人)	(3人)	(3人)	(3人)	
			実績	3人	3人	3人	
	学習支援補助員配置数:適応指導教室2人		目標 (2人)	(2人)	(2人)	(2人)	
			実績	2人	2人	2人	
	登校支援員配置数:小学校4人(小学校2校につき1人)		目標 (4人)	(4人)	(4人)	(4人)	
		実績	4人	4人	2人	4人	
達成状況説明	学習支援補助員を中学校及び適応指導教室へ、登校支援員を小学校へ目標どおり配置したことで、不登校の児童生徒に対する指導や相談、登校支援等を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R3年度)
	不登校児童生徒復帰率20%以上		目標 ()	(20%以上)	(20%以上)	()	(30%)
			実績		18.5%	17.77%	
			目標 ()	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明	登校支援員による登校しぶり児童やその保護者に対する支援のほか、学習支援補助員や適応指導教室において学習面の支援を行ったが、前年比-0.73ポイントの17.77%の復帰率となり、平成30年度成果目標は未達となった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>家庭環境の変化や学校における対人関係不安のほか、情緒不安による登校しぶり等により不安定な状況が続くケースも多く、切れ目のない支援が必要となるが、巡回配置であることから継続した支援が必要な児童への対応が課題となっている。</p>	<p>・不登校要因として学校生活に不慣れな状況があげられるため、家庭から学校へ登校するまでの付き添いを学校協力のもと実施しているが、巡回配置における課題解消のため、養護教諭やスクールソーシャルワーカーなどと連携した登校支援等を行うことで切れ目のない支援体制を構築していく。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・不登校要因が様々であり、切れ目のない継続した支援が必要であるため、引き続き支援員を配置し不登校対策に取り組む。 ・家庭から学校までの送り出しや登校付き添いなど、学校やスクールソーシャルワーカー、地域の民生委員などと連携して取り組む。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	12,931	12,931	10,344	2,587	0
<pre> graph LR A[豊見城市 12,931千円] --> B[共済費 1,291千円] A --> C[賃金 11,640千円] B --> D[那覇年金事務所 1,291千円] C --> E[臨時職員 11,640千円] </pre> <p> <input type="checkbox"/> 学習支援補助員共済費 <input type="checkbox"/> 適応指導教室学習支援補助員共済費 </p> <p> <input type="checkbox"/> 学習支援補助員賃金 <input type="checkbox"/> 適応指導教室学習支援補助員賃金 <input type="checkbox"/> 登校支援員賃金 </p>					

資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○各学習支援補助員及び登校支援員の採用については、面接を行い採用している。 ○予算規模は、事業に見合った規模と考える。 ○費目・使途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認、適正である。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-⑤	英語教育推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア		
担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進		
事業内容	国際化時代に対応できる人材の育成を目的に、小中学校へ外国人英語講師を巡回配置し、小学校の外国語活動や総合的な学習時間に日本人英語指導講師を派遣する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	20,876	20,296			
		(b) 予算現額	20,876	20,296			
		(c) 増減額(b-a)	0	0			
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)		20,876	20,296			
	B. 執行済額		20,380	20,232			
	うち交付金充当額		16,303	16,185			
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		97.6%	99.7%			
予算の状況の説明		当初計画どおり適正に執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	外国語英語教師(ALT)の配置数:4名	目標	(4人)	(4人)	(4人)	(4人)	
		実績	4人	4人	4人	3人	
	日本人英語指導講師(JTE)派遣校数 小学校:8校	目標	(8校)	(8校)	(8校)	(8校)	
		実績	8校	8校	8校	8校	
達成状況説明	・外国語英語教師については、3人の雇用にとどまり、活動目標は未達であった。 ・市内小学校8校に対し13人の日本人英語指導講師を派遣した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
	・小学生 英語に対する興味・関心が高まったか(80%以上)を含め、本人へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	()	(75%)	(70%)	(80%)	()
		実績		69.96%	76.60%	69.80%	
	・中学生 沖縄県学力到達度調査(英語)での県平均正答率との差 +3.5ポイント	目標	()	()	()	(+3.5ポイント)	()
		実績				+2.6ポイント	
	進捗状況説明	・市内中学校3校に対し外国人英語講師を3名配置し、実践的な英語教育を展開したが、学力到達度調査では県平均より2.6ポイント上回ったが、成果目標には到達できなかった。 ・また、市内小学校に対し13人の日本人英語指導講師を派遣し、英語学習に興味を惹きつけられるような英語教育を展開したが、成果目標値を10.2ポイント下回った。					

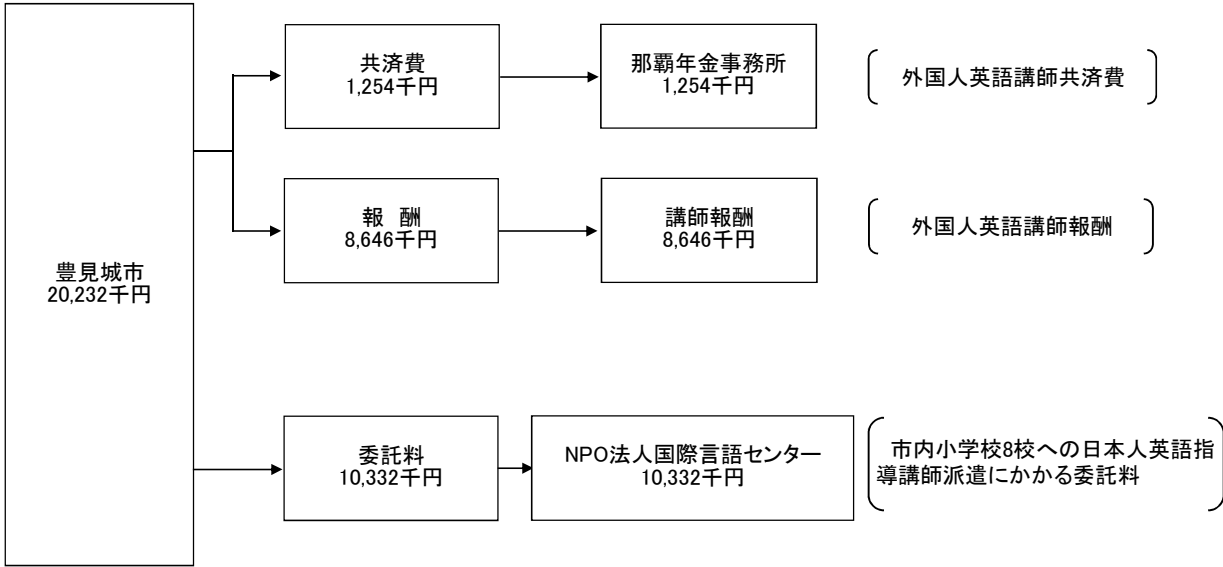
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>小学校のアンケート結果において、高学年に上がるにつれ英語学習に対する興味・関心が低くなる状況が伺えるため、教育基盤となる低学年時からの英語学習の充実が必要である。</p>	<p>英会話を中心とした授業内容を取り入れるなど、体験・実践を意識した授業展開を図り、児童の興味・関心を惹きつける授業展開を図る。</p>

今後の取り組み方針

・小学校高学年における英語授業の教科化を見据え、今年度実施した授業時数を維持し、引き続き英語教育の充実を図る。
 ・また、授業において担任教諭との会話を取り入れるなどして連携し、より実践的で「楽しく英語を学ぶ」授業を展開し、英語への興味・関心を惹きつける。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
20,232	20,232	16,185	4,047	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○日本人講師を多数数(13人)派遣することが可能である事業者と随意契約を行った。 ○予算規模は事業に見合った規模と考える。 ○費目・用途については、業務日誌等の書類により確認し、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		豊見城市					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-⑥	情報教育補助員派遣事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(3)-ウ	
担当部署名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	多様な情報系人材の育成・確保 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	パソコン教室や電子黒板を活用する授業へ情報教育補助員を派遣し、ICTの活用についてサポートすることで児童生徒の情報活用能力の向上を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,934	4,960	5,200	4,994	5,100
		(b) 予算現額	4,565	3,992	4,559	2,863	2,601
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,369	▲ 968	▲ 641	▲ 2,131	▲ 2,499
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)		4,565	3,992	4,559	2,863	2,601
	B. 執行済額		3,677	3,986	4,575	2,848	2,595
	うち交付金充当額		2,941	3,188	3,660	2,278	2,076
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		80.5%	99.8%	100.4%	99.5%	99.8%
予算の状況の説明		H30当初より補助員1名の確保ができず、執行残について減額補正した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	情報教育補助員配置数:2人	目標	(3人)	(3人)	(3人)	(2人)	
		実績	3人	3人	2人	2人	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	当初、情報教育補助員を3人配置する計画だったが、採用が見込めなかったため、年度途中で目標値を修正し2人の配置となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(R3年度)
	ICT機器を活用できたと感じた児童生徒の割合:65%以上	目標	()	(65%以上)	(65%以上)	(65%以上)	(80%以上)
		実績		59.9%	65.8%	60%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 情報教育補助員を市内小中学校へ派遣し、PC教室での授業等において、支援員として実践指導することで、担任教諭や児童生徒の情報リテラシーの向上が図られた。 H30年度よりアンケート調査対象範囲を拡大したことによりICT機器を使った授業前年度比+5ポイントとなった。 					

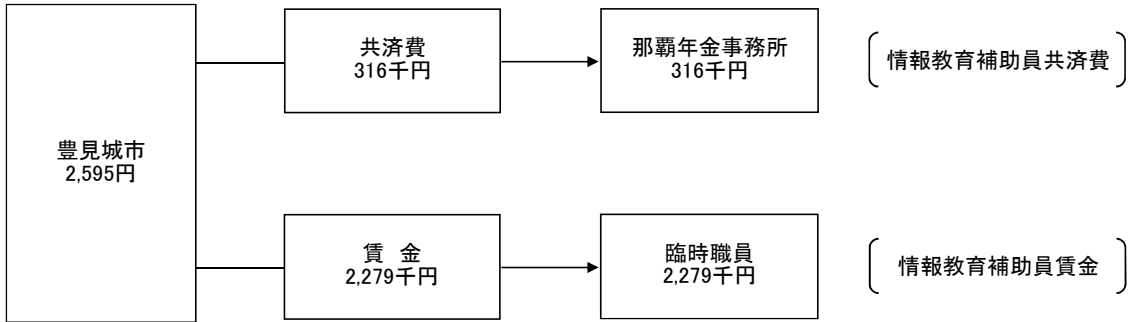
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初より補助員1名分の欠員状態を解消することができなかった。そのため、2人体制で各学校へ派遣できるよう巡回計画を見直したことから、1校あたりの派遣時間数が減少し、十分な支援を行えなかったことが、目標を達成できなかった原因につながったと考える。 ・沖縄県内における有効求人倍率が依然として高い値で推移しており、人員確保が厳しい状況が続いている。 	<p>会計年度任用職員制度の導入に合わせて、賃金や休暇等、処遇面の改善を行い補助員の確保に努める。</p>

今後の取り組み方針

・活動目標である補助員の確保については、処遇面を含めあらゆる方策を講じて解決に向けて取り組む必要がある。
 ・成果目標については、アンケート対象児童生徒の対象範囲拡大及び補助員の欠員が影響し未達となったが、補助員を適正に派遣することでICTを活用した授業のサポートに取り組み、教諭や児童生徒の情報リテラシーの向上を図りたい。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
2,595	2,595	2,076	519	



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○		支出先の選定方法は妥当か。	○情報教育補助員の採用については、面接を行い採用している。 ○予算規模は、事業に見合った規模と考える。 ○費目・使途については、出勤簿や業務日誌等の書類により確認、適正である。
	○		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市							
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-⑦	児童生徒派遣費補助事業(部活分)			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-イ		
担当部署名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	本市の児童生徒が部活動におけるスポーツ及び文化活動を通して、県代表として県外大会へ出場する際に必要な派遣費の助成を行う。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		
	予算の状況	(a) 当初予算額	15,276	7,200	7,200	6,840	2,520	
		(b) 予算現額	6,584	7,200	6,676	6,840	2,520	
		(c) 増減額(b-a)	▲ 8,692	0	▲ 524	0	0	
		(d) 繰越額						
	A. 計(b+d)		6,584	7,200	6,676	6,840	2,520	
	B. 執行済額		6,584	5,361	5,660	5,920	2,078	
	うち交付金充当額		5,267	4,288	4,527	4,735	1,662	
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		100.0%	74.5%	84.8%	86.5%	82.5%	
予算の状況の説明		当初見込んだ派遣数を下回ったため、不用額が発生した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		
	児童生徒派遣費の一部を助成		目標	(派遣費の一部助成)	(派遣費の一部助成)	(派遣費の一部助成)	(派遣費の一部助成)	
			実績	派遣費の一部助成	派遣費の一部助成	派遣費の一部助成	派遣費の一部助成	
			目標	()	()	()	()	
			実績					
達成状況説明	県外大会へ出場する児童生徒に対し派遣費補助を行った。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)	
	対象児童の視野が広がったか(80%以上)を含め、児童生徒へのアンケートにより、本事業のあり方を検証する。		目標	()	()	()	(80%)	()
			実績				100.00%	
			目標	()	()	()	()	()
			実績					
	進捗状況説明	派遣費補助を行った児童生徒に対し、アンケートを実施した結果、全ての児童生徒より自己成長に繋がったとの回答が得られた。						

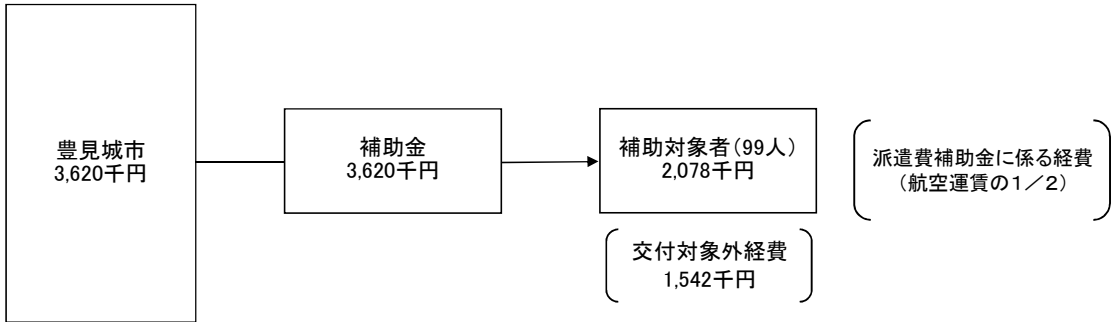
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	アンケートでは、全国大会への出場で見つかった課題や、他県の児童生徒からの学びや、自己成長について確認した。 結果、全ての児童生徒から「今回の県外大会等に参加することができ、自己成長につながった」等の設問に対し「そうだ」という回答が得られた。	アンケートの実施により全国大会派遣により自己成長への気づきが改めて確認されたため、改善の必要性はないものと考えられる。 引き続き本事業を推進し、児童生徒の自己成長につなげたい。

今後の取り組み方針

県外派遣の機会に補助金が活用できるよう小中学校への文書による通知の他、校長会や教頭会の場において直接周知するとともに、広報紙を活用するなどして制度の周知に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
3,620	2,078	1,662	416	1,542



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助(支出先)は交付要綱に沿って行っている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、対象者からの申請に基づいており適正である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○補助対象経費以外は市、保護者による負担となっているため、受益者との負担関係は妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途は補助要綱に沿っており適正である。

市町村名		豊見城市					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-⑧	児童生徒派遣費補助事業(部活外)			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(1)-ア	
担当部署名	教育部 生涯学習振興課	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地域を大切に、誇りに思う健全な青少年の育成 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	本市の児童生徒がスポーツ及び文化活動において、県代表として県外大会へ出場する際に必要な派遣費の助成を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	15,276	7,200	7,200	6,840	4,320
		(b) 予算現額	6,584	7,200	6,676	6,840	4,320
		(c) 増減額(b-a)	▲ 8,692	0	▲ 524	0	0
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計(b+d)		6,584	7,200	6,676	6,840	4,320
	B. 執行済額		6,584	5,361	5,660	5,920	3,135
	うち交付金充当額		5,267	4,288	4,527	4,735	2,508
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	74.5%	84.8%	86.5%	72.6%
予算の状況の説明		当初見込み派遣数を下回ったため、予算現額4,320千円に対し、執行済額3,135千円で、1,185千円減額になった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	児童生徒派遣費の一部を助成	目標	(派遣費の一部助成)	(派遣費の一部助成)	(派遣費の一部助成)	(派遣費の一部助成)	
		実績	派遣費の一部助成	派遣費の一部助成	派遣費の一部助成	派遣費の一部助成	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	児童生徒派遣費の一部助成について、県外大会へ出場する児童生徒に対して、派遣費補助を行うことができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
	対象児童の視野が広がったか(80%以上)を含め、児童生徒へのアンケートにより、本事業のあり方を検証する。	目標	()	()	()	(80%)	()
		実績				99.1%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・県外派遣の児童生徒数は186人であり、当該児童生徒に対して派遣費補助を行い、本市の人材育成に役立てることができた。 ・対象児童の視野が広がったかについて、派遣補助児童生徒を対象にアンケートを実施した。186人からの回答を集計した結果、「今回の大会に出場して技術面に関する課題が見つかった。」等に対し「はい」と99.1%の回答を得ることができた。 					

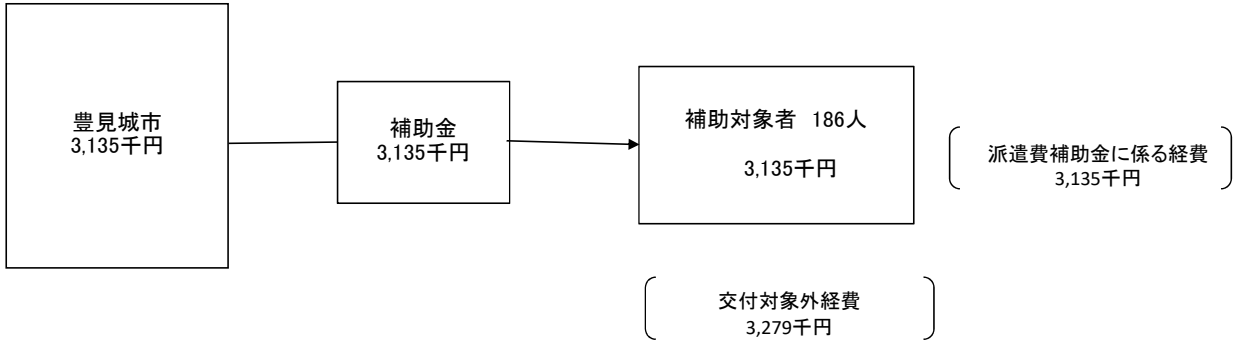
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(アンケート実施) ・児童生徒に対するアンケートのため、調査で得られる数値が高く保証されてしまう懸念がある。	(アンケート実施) ・児童生徒のみを対象とするのではなく、保護者の意見や感想を問う項目を追加するなどし、補助金のよりよい活用を目指すものとする。

今後の取り組み方針

・今後、アンケート内容を精査し、より具体的に効果を検証できる内容へ改修する。
 ・引き続き、市ホームページや広報紙への掲載、学校側への周知を行い、制度への認知を高めより多くの人に活用してもらえるよう取り組んでいく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
6,414	3,135	2,508	627	3,279



資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助(支出先)は交付要綱に沿って行っており、選定方法は適正と考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、対象者からの申請に基づいた規模になっているため、適正である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○交付金での対象は、航空運賃1/2であり、それ以外については、市負担、保護者負担となっているため、受益者との負担関係は妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○補助は交付要綱に沿って行っており、費目・使途は適正と考えている。

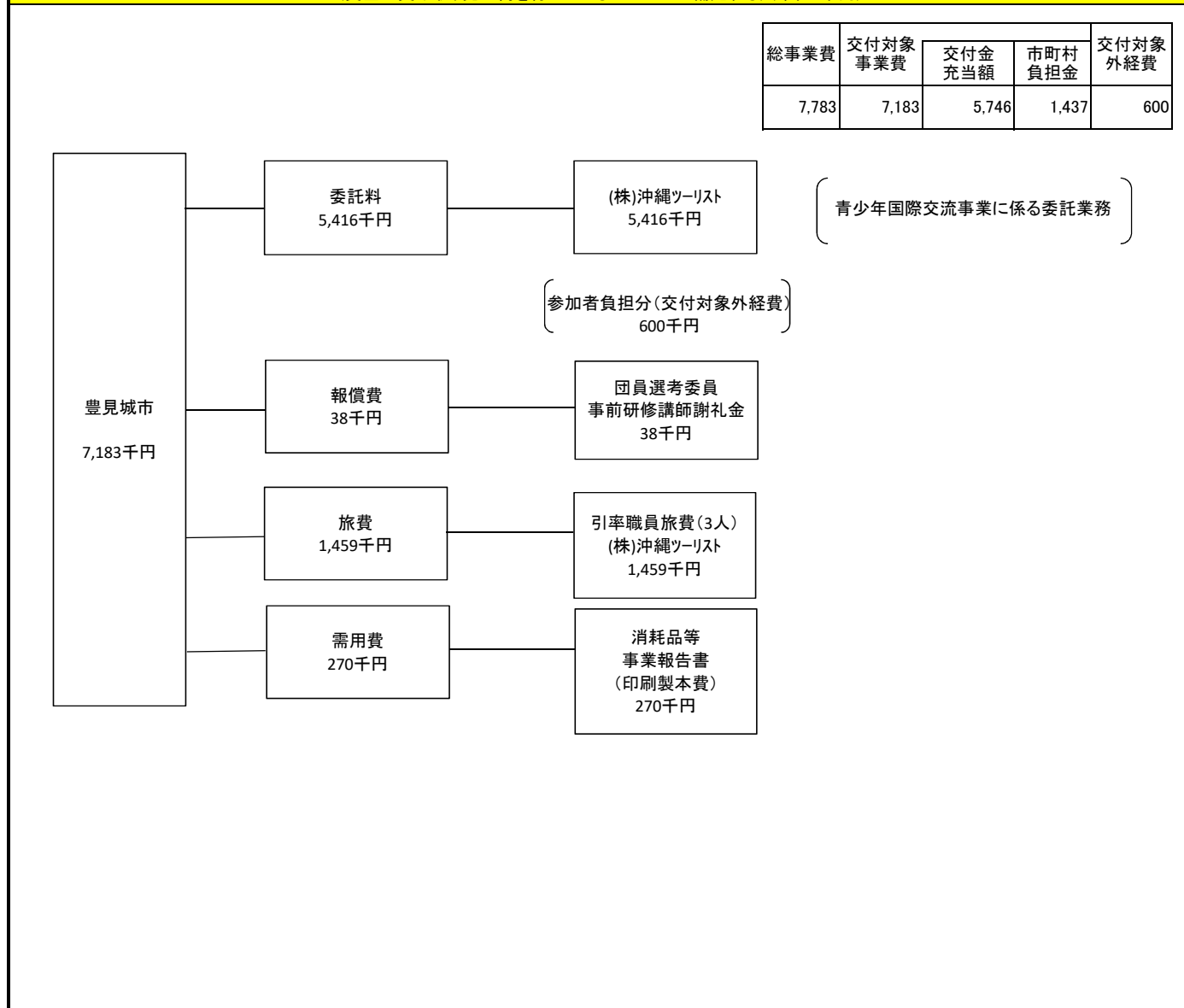
市町村名		豊見城市																									
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】																											
事業番号・事業名	4-⑨	青少年国際交流事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-4-(1)-ア																					
担当部課名	教育部 生涯学習振興課	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進 Ⅲ-3-(1)																					
事業内容	市内在住の中学生をハワイ州へ派遣し、英語環境で生活することを通して、英語に対する興味関心をさらに高め、主体的、意欲的に学習する機会を提供し、次代を担う国際的な人材を育成する。																										
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)																										
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()																										
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H26年度					H27年度					H28年度					H29年度					H30年度					
		(a) 当初予算額	6,325					6,300					7,109					7,247					7,203				
		(b) 予算現額	6,546					5,869					7,270					7,247					7,203				
		(c) 増減額(b-a)	221					▲ 431					161					0					0				
		(d) 繰越額	0					0					0					0					0				
		A. 計(b+d)	6,546					5,869					7,270					7,247					7,203				
		B. 執行済額	5,692					5,165					6,565					7,160					7,183				
		うち交付金充当額	4,552					4,131					5,252					5,728					5,746				
		次年度繰越額	0					0					0					0					0				
		執行率(%) (B/A)	87.0%					88.0%					90.3%					98.8%					99.7%				
予算の状況の説明		計画していた事業内容は全て予算内で執行されており、予算執行の点においては適正であったと考えているが、活動目標(団員派遣人数の減)において課題が残った。																									
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況																								
			H27年度					H28年度					H29年度					H30年度									
	市内中学生14名をハワイ州に派遣		目標	(14名)					(14名)					(14名)					(14名)								
			実績	14名					14名					14名					12名								
	報告会の開催(1回)		目標	(1回)					(1回)					(1回)					(1回)								
			実績	1回					1回					1回					1回								
達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> これまで14人の団員(生徒)を交流事業に参加させることができているが、今年度は予定価格(市場価格)よりも予算見積りが低かったため、団員を12人に減らさざるを得なかった。 豊見城の文化、歴史、観光について、選考試験における小論文のテーマに採用したり、事前研修の講習に取り入れることで、国際交流を行う上で重要な自分の地域についての理解を深めるきっかけができた。 毎週2時間、ALT講師による英会話を充実させたことで、団員による現地での自己紹介やサンキュースピーチを堂々と行うことができた。 帰国後は、報告会を開催し、生徒自身が保護者をはじめとした関係者の前で研修内容を報告することにより、リーダーとして向上心や積極性をアピールできる機会を設けることができた。 																									
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)		H28年度					H29年度					H30年度					目標値(年度)							
	派遣後、団員アンケートで「将来、国際関係の仕事をしたまたは国際科に進学したい」と回答した人の割合が8割以上		目標	()					()					()					(80%)								
			実績	/					/					/					58%								
	【参考指標】国際的な人材を育成するため国際交流や地域貢献活動に自ら積極的に取り組む意識を向上させる。(【応募倍率】応募者数/派遣人数)		目標	()					(2.5倍)					(3倍)					()								
			実績	/					【3.14倍】44/14人					【4.36倍】61/14人					/								
進捗状況説明		<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度から成果指標を現在の指標に改めた。アンケート項目中「将来、国際関係の仕事をしたまたは国際科に進学したい」の質問に対し、「思う」が58%、「今はまだわからない」42%、「思わない」0%だった。 海外派遣に参加すると、自らの地域(沖縄県・豊見城市)の文化、歴史、産業のことを十分に知っていないことを自覚し、帰国後、海外での経験や報告会等を通して自らの地域を国際的な視点で知ろうという意識が高まる傾向にある。 また、今回の参加者において、高校受験をした生徒(中高一貫教育校生、受験対象外生徒(2年生を除く。))のうち55.6%(5人/9人)が国際科関係(国境なき医師団を目指し、医学科コースへ進学した者を含む。)に進学したが、派遣前の進学希望先の状況と比較して国際関係への進学が増加したことから、一定の成果は得られたと考えられる。 																									

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>成果目標を達成できておらず、現地で積極的に会話する団員もいればそうでない団員もいて各学校で選考された団員によってリーダー性に偏りがあったことに課題が残った。事前研修での英会話技術の向上及び国際社会への興味関心を更に引き出せるよう事業内容を精査する必要がある。</p>	<p>・ハワイの方々と交流する前に、ハワイにおける日系人の歴史を学ぶため「ハワイ日本文化センター(JCCH, Japanese Cultural Center of Hawaii)」、ハワイの歴史・自然・文化を学ぶために「ビショップ博物館」の見学をあらかじめプログラムに組み込んでいた方が良いと思われる。当該施設での事前研修により、団員がハワイ(海外)を学ぶことで、現地でより深い交流ができ、意識の向上につながる。</p> <p>・沖縄(豊見城)とハワイに関するテーマについても採用できるか検討する。</p>

今後の取り組み方針

・沖縄(豊見城)とハワイに関するテーマについても採用できるか検討する。
 ・団員派遣前の事前研修において、地元地域の文化、歴史、産業を通して団員自身のアイデンティティーを育てるプログラムを引き続き実施していく。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流	評価	点検項目	評価に関する説明
使途の流	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、指名競争入札にて選定しており、妥当である。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○市全体の予算の都合で、例年確保していた団員定数14人の予算を確保することができず、派遣人数が2人減となった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○参加料及び委託料等の受益者負担割合は適していたと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○事業目的達成に適した使途の支出であったと考えている。

市町村名	豊見城市						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-⑩	お仕事体験事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(10)-イ	
担当部署名	総務企画部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成30年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	若年者の雇用促進		
事業内容	豊見城市内の小中学生を対象に、様々な仕事の疑似体験ができるイベントを開催することで、若年のうちから将来の職業観を育み、夢や希望を抱かせることを目的とする。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		1,854				
			1,854				
			0				
			0				
			1,854				
	B. 執行済額		1,854				
	うち交付金充当額		1,483				
	次年度繰越額		-				
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		事業計画どおり適正に執行を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	年1回の事業実施	目標	()	()	()	(年1回)	
		実績				年1回	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	事業計画どおり実施できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
	就業意識が向上したか(80%以上)を含め、イベントに参加した児童生徒へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	()	()	()	(80%)	()
		実績				98%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	子供用、保護者用、出展者用の3種類のアンケートを実施し本事業のあり方を検証した。子供用アンケートにおいて、アンケート回答者の98%から体験した仕事は楽しかったとの回答を得られたが、アンケート回答率が20%と低く課題が残った。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> アンケート回答率が低かったこと等から、より詳細に事業効果が確認できるよう調査手法を検証する必要がある。 ブースによって、受付から体験終了までの手順をあまり把握しておらず、来場者へ十分な案内ができなかった。 市PTA連合会へ、ボランティアスタッフの協力依頼をしているが、行事が重なり予定より参加者が少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの設置場所の改善(複数箇所への設置等)や設問内容、レイアウトの変更を行うことでより正確な効果確認につなげる。 各ブースへの事前説明を丁寧に行うことで、ある程度解消できると考える。また、受付方法など当日の流れがわかる案内表示をするなど会場内の工夫をする。 天候や開催時期にもよると思うが、少しでも多くボランティアスタッフを確保できるよう早めに協力依頼を行う。

今後の取り組み方針

・来場者からのアンケートをもとに、受付から体験までの各工程の作業を一つ一つ見直し運営の効率化を図る。
 ・待っている間に休憩するスペースがないため、会場レイアウトの工夫を行い保護者の負担軽減を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
1,854	1,854	1,483	371	0



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	プロポーザルによる委託事業者の選定を行い、委託料を適正に支出した。実績報告等をもとに、事業の運営に必要な経費にかかる支出であることを確認できた。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		豊見城市					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	電子黒板整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(3)-ウ	
担当部署名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	多様な情報系人材の育成・確保	
事業内容	わかりやすい授業を実施し学校教育の質の確保を図るため、電子黒板を整備する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	107,775	16,566	8,445	12,933	10,000
		(b) 予算現額	106,809	16,566	18,213	11,768	7,439
		(c) 増減額(b-a)	▲ 966	0	9,768	▲ 1,165	▲ 2,561
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)		106,809	16,566	18,213	11,768	7,439
	B. 執行済額		104,311	16,178	18,212	11,768	7,438
	うち交付金充当額		17,923	12,942	14,569	9,414	5,950
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		97.7%	97.7%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		入札により適正に執行し、執行残2,561千円は減額補正した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	電子黒板の整備7台	目標	(12台)	(14台)	(10台)	(7台)	
		実績	12台	14台	9台	7台	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	令和元年度に学級増が見込まれる小学校2校、中学校2校に電子黒板を7台整備した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
	児童生徒にアンケートを実施し、電子黒板を活用した授業が分かりやすかったと答えた割合 75%以上	目標	()	()	(75%以上)	(75%以上)	()
		実績			77.6%	67.63%	
	【参考指標】 電子黒板活用教科数:2教科以上	目標	()	(2教科以上)	()	()	()
		実績		13教科			
	進捗状況説明	電子黒板を活用した授業が分かりやすかったと答えた割合が67.63%(前年度比-9.97ポイント)となり、成果目標は未達となった。 ・小学校:70.93%(対前年比-14.98) ・中学校:53.95%(対前年比+10.11)					

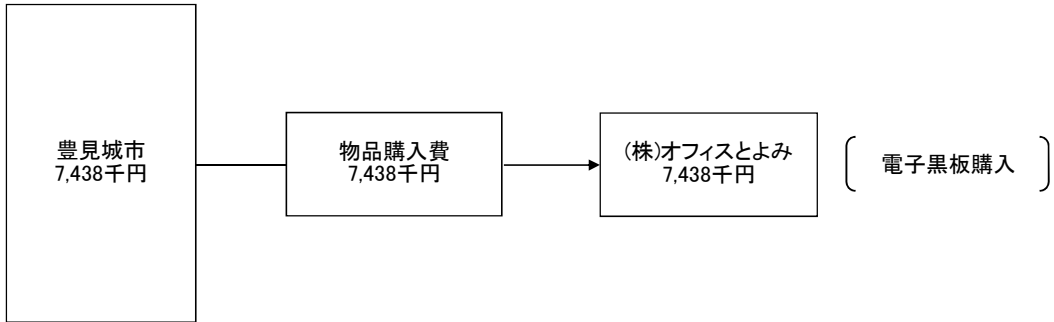
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	電子黒板の整備から複数年経過しており、電子黒板を活用した授業に対する定着度が増していることから「分かりやすさ」に対する深度を深める必要がある。	既存のデジタル教科書を使った授業実践のみならず、電子黒板の活用幅を広げた指導に加え、担任教諭のスキルアップにより児童生徒の「分かりやすさ」を高める授業を展開する。

今後の取り組み方針

タブレットPCの整備により電子黒板の活用幅を広げられる機能強化を行い、児童生徒と担任教諭による双方向操作や内蔵カメラを活用した授業展開を行い、小中学校の成果目標達成に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
7,438	7,438	5,950	1,488	0



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については、指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は、事業に見合った規模であった。 ○費目・使途については、事業目的達成のため必要であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	龕(饒波)修復事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-ア		
担当部署名	教育部 文化課	事業実施(予定)年度	平成27~30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化資源を活用したまちづくり Ⅲ-3-(2)		
事業内容	豊見城市の葬制文化を伝える資料である「龕」を修復し、企画展等で活用することで、地域独自の民俗・祭祀・葬制等といった地域文化の伝承を図る。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和元年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	5,940		1,880	1,739	
		(b)予算現額	5,778		1,880	1,739	
		(c)増減額(b-a)	▲162		0	0	
		(d)繰越額	—		—		
	A. 計(b+d)		5,778		1,880	1,739	
	B. 執行済額		5,778		1,739	1,674	
	うち交付金充当額		4,662		1,391	1,339	
	次年度繰越額		0		0	0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%		92.5%	96.3%	
予算の状況の説明		適正な積算と計画の結果、事業計画通りに執行を行えた。不用額65千円については入札残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	龕の修復作業	目標	()	()	(修復実施)	()	
		実績			修復実施		
	【参考指標】 修復計画の検討 基本設計図の作成	目標	()	(修復計画検討 基本設計図作成)	()	()	
		実績		修復計画決定 基本設計図完成			
達成状況説明	H30年度は、過年度作成した設計図などを基に修復を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(R1年度)
	龕の修復作業の完了	目標	()	()	(基本設計図作成)	(修復完了)	()
		実績			基本設計図完成・レプリカ完成	修復完了	
	【R1成果目標】 「龕」本体の修復完了後の企画展示会の来場者数	目標	()	()	()	()	(600人)
		実績					
	進捗状況説明	H30年度は過年度作成した設計図などを基に修復作業にかかり完成した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>目標として設定していた龕の修復については過不足なく実施し、完了できた。その要因として、修復作業を委託した事業者と、その作業経過の確認を密に行ったことがあげられる。</p>	<p>龕修復事業については、事業計画とおりに取り組みが実施できたため、龕の修復を適切に行っており、改善の必要がないと考えられる。</p>
今後の取り組み方針		
<p>修復が完了した龕について企画展示会を開催し地域独自の民俗・祭祀・葬制等といった地域文化の伝承を図る。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	1,674	1,674	1,339	335	0
<pre> graph LR A[豊見城市 1,674千円] --> B[委託料 1,674千円] B --> C[文化財サービス沖縄営業所 1,674千円] subgraph D [龕の修復に係る委託業務] C end </pre>					

資金の流 れ、費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、指名競争入札方式によって適切に選定している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、適切に予算を設定している。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○予算の費目・用途については、事業に必要最低限に設定し、執行している。委託業務完了段階で検査を行っており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-②	組踊継承事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-ア		
担当部署名	教育部 文化課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和元年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化資源を活用したまちづくり		
事業内容	豊見城が題材となっている組踊「雪払」について、継承と活用しやすい環境を整えるため、復元台本の増補と上演を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,897			655	5,122
		(b) 予算現額	5,897			655	5,122
		(c) 増減額(b-a)	0			0	0
		(d) 繰越額	—			—	—
	A. 計(b+d)		5,897			655	5,122
	B. 執行済額		4,941			555	4,079
	うち交付金充当額		3,952			444	3,263
	次年度繰越額		0			0	0
	執行率(%) (B/A)		83.8%			84.7%	79.6%
予算の状況の説明		精算払いであり、稽古回数などで予算の変動があるため、不用額が発生した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	組踊「雪払」上演 1回	目標	()	()	()	(1回)	
		実績				1回	
	【参考指標】 組踊「雪払」台本増補検討委員会の設置及び開催	目標	()	()	(設置・開催)	()	
		実績			設置・開催		
達成状況説明	組踊「雪払」の増補した台本を基に、練習会を重ね上演を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
	組踊出演者数 23名 上演来場者数 646名	目標	()	()	()	(23名 646名)	()
		実績				30名 660名	
	【参考指標】 組踊「雪払」台本増補 100部	目標	()	()	(100部)	()	()
		実績			100部		
	進捗状況説明	・組踊保持者の指導のもと練習を重ね、上演に際して30名の出演が達成された。 ・上演の当日、来場者数は660人を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>平成29年度に台本の増補行い、今回の上演で、舞台展開等の改善を行ったことで完成形に近いものになったと思われる。</p> <p>しかし、今回の上演でも改善点などもあると思われ、関係者・関係団体等と協議・連携を図る必要がある。また、指導者、出演者が発表会等他の日程が重なったことで稽古日程の調整に苦慮した。</p>	<p>今回の上演時の内容を改めて精査し、舞台展開・所作等が理解しやすい「上演台本」の作成を行い、本市の文化振興の活性化と伝統文化の保存継承を図る。</p> <p>また、関係団体、関係者等と協議、連携を図りながら、今後は上演時期について検討していきたい。</p>
今後の取り組み方針		
<p>平成30年度の上演を基に、舞台展開などが入った上演台本を、検討委員会で検討しつつ制作する。</p>		

資金の流れ					
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	4,079	4,079	3,263	816	
<pre> graph LR A[豊見城市 4,079千円] --> B[委託料 4,079千円] B --> C[豊見城市組踊保存会 4,079千円] subgraph D [] C end style D fill:none,stroke:none </pre>					

資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は、市内で組踊継承活動する唯一の事業者であることが明確であるため、選定は適切であったと考えている。</p> <p>○予算規模は、適切に予算を設定している。</p> <p>○予算の費目・用途については、事業に必要最低限に設定し、執行している。委託業務完了段階で検査を行っており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	豊見城市						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-③	戦争体験等映像化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-ア	
担当部署名	教育部 文化課	事業実施(予定)年度	平成29~30年度		沖縄振興基本方針該当箇所	文化資源を活用したまちづくり Ⅲ-3-(2)	
事業内容	沖縄戦終結から72年が経過し、体験者が自ら語り記憶を継承することが困難になってきている。そこで、沖縄戦を含めた「アジア・太平洋戦争」の体験者を取材し、個々の証言等を基に映像資料を編集制作し、平和を伝える学習材を整備する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和元年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	4,188	5,246			
		(b)予算現額	4,188	5,246			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-				
	A. 計(b+d)		4,188	5,246			
	B. 執行済額		4,139	5,245			
	うち交付金充当額		3,311	4,196			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		98.8%	100.0%			
予算の状況の説明		適正な積算と計画の結果、事業計画通りに執行を行えた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	証言撮影	目標	(20名)	(10名)	()	()	
		実績	20名	11名			
	ダイジェスト版の製作	目標	()	(完成)	()	()	
		実績		完成			
達成状況説明	戦争体験者の撮影を行うための事前資料として、各地域に居る証言者の体験内容の調査を行い、11名分の戦争体験者等基礎調査カードを作成することが出来た。戦争体験者の撮影を10名を目標にしていたが、11名撮影できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R1年度)
	証言映像30名分の完成 学習材の整備完了	目標	()	()	(30名)	()	()
		実績			31名		
	【R1成果目標】 整備した学習材を活用した企画展示会の 来場者数	目標	()	()	()	()	(600名)
		実績					
進捗状況説明	H29~H30年度で約30名の戦争体験者映像を収録・編集する計画のうち、H29~H30年度で31名分の収録が予定を越えた成果で完了する事が出来た。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 完成したDVDを活用するにあたり公開範囲を設定する必要があった。選択肢として学校内限定から一般公開、インターネット公開まで公開範囲があり、体験者本人に対して説明と承諾の確認が必要となった。 インターネット公開を行うにあたり、海外からのアクセスが考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人の承諾を受けた上で、学校内使用、一般公開、インターネット公開に上げられ、より多くの市民に貴重な戦争体験を見る機会を創出できた。 今後、映像を多言語化(字幕・吹き替え)することで海外からの視聴に対応できるよう取り組んでいく。
今後の取り組み方針		
<p>完成した学習材を学校等に平和教育の学習材として活用を促していくとともに、企画展示会を開催し平和教育の発信を行っていく。</p>		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,245	5,245	4,196	1,049	0
<pre> graph LR A[豊見城市 5,245千円] --> B[委託料 5,245千円] B --> C[株式会社海燕社 5,245千円] subgraph D [] C end </pre>				

資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、公募型プロポーザル方式によって適切に選定している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、適切に予算を設定している。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○予算の費目・用途については、事業に必要最低限に設定し、執行している。委託業務完了段階で検査を行っており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	